

令和2年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」結果の概要について

1 チェックリスト実施率の推移

- 令和2年度は令和元年度と比較して、胃内視鏡[集団]と大腸[集団]を除き、実施率が上昇している。
- 集団と個別の実施率を比較すると、胃部エックス線以外の検診において個別が集団を上回っている。
- 令和元年度の全国平均※と都の令和2年度実施率を比較すると、個別検診については全てのがん検診において、都の実施率が全国平均を上回っている。

※国立がん研究センターが令和2年度実施率の全国平均を公表するのが令和3年3月頃となるため、令和元年度の全国平均と比較

＜平成30年度～令和2年度の都のチェックリスト実施率＞

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃部エックス線		胃内視鏡		集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診								
令和2年度	81.2%	76.7%	69.3%	78.0%	76.2%	76.6%	76.6%	78.2%	76.9%	79.1%	75.1%	79.4%
令和元年度	79.0%	73.0%	71.2%	69.6%	78.0%	73.6%	75.5%	73.5%	74.7%	76.7%	72.0%	77.4%
平成30年度	69.4%	65.6%	40.4%	70.0%	63.2%	65.5%	62.8%	63.3%	68.3%	68.3%	54.3%	67.6%
[参考]令和元年度 全国平均	80.7%	68.8%	72.4%	70.7%	80.3%	70.2%	80.5%	68.4%	80.9%	71.7%	80.5%	72.0%

2 チェックリストのうち「調査1 令和2年度の検診実施体制について」の実施率

- 令和2年度は令和元年度と比較して、大腸[集団]を除く全ての検診で、実施率が上昇している。＜調査1における令和元年度～令和2年度の都のチェックリスト実施率＞

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃部エックス線		胃内視鏡		集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診								
令和2年度	68.2%	66.7%	53.2%	65.5%	61.6%	65.8%	63.8%	68.1%	64.6%	68.4%	58.7%	66.2%
令和元年度	67.0%	61.0%	50.5%	60.9%	63.0%	61.3%	62.3%	62.1%	61.5%	65.1%	56.8%	63.9%
[参考]令和元年度 全国平均	75.2%	63.8%	64.7%	66.2%	75.1%	64.8%	75.0%	63.5%	75.7%	66.5%	75.4%	66.7%

- 各項目の実施率を令和元年度と比較し、2種類以上のがん検診において10ポイント以上上回った項目は下表のとおり。問4の精検結果把握に係る項目、問6の検診機関（医療機関）の質の担保に係る項目が多く挙がっている。

項目	都R2と都R1の比較 +10ポイント以上	
	集団検診	個別検診
	問1-1 対象者全員の氏名を記載した名簿を、住民台帳などに基づいて作成しましたか	○
問3-1 受診勧奨時の説明資料配付	○	○
問3-2-1 精検機関一覧に記載した精検機関への精検結果報告依頼		○
問4-1 精検方法・結果の把握	○	○
問4-2 精密検査方法及び、精密検査（治療）結果が不明の者については、本人もしくは精密検査機関への照会等により、結果を確認しましたか		○
問4-3 精検方法・結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有		○
問4-5 精密検査未受診と精密検査結果未把握を定義に従って区別し、精密検査未受診者を特定しましたか		○
問5-3 検診結果の委託先からの報告が地域保健・健康増進事業報告（以下、「健増報告」という。）の全項目を網羅していない場合の改善要求	○	
問6-1 委託先検診機関（医療機関）を、仕様書の内容に基づいて選定しましたか		○
問6-1-2 検診終了後に、委託先検診機関（医療機関）で仕様書（もしくは実施要綱）の内容が遵守されたことを確認しましたか	○	
問6-2 検診機関への精度管理評価のフィードバック		○
問6-2-2 検診機関（医療機関）毎のプロセス指標値を集計してフィードバックしましたか		○

- 調査1の各項目の実施率を令和元年度の都及び全国平均と比較し、2種類以上のがん検診において10ポイント以上下回った項目は下表のとおり。

項目	都R2と都R1との比較 -10ポイント以上		全国との比較 -10ポイント以上	
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
	問1-2 対象者全員への受診勧奨			○
問2-1 個人別の受診（記録）台帳またはデータベースを作成しましたか			○	
問2-2 過去5年間の受診歴を記録していますか	○		○	
問3-1 受診勧奨時の説明資料配付			○	
問3-2 要精検者全員に対し、受診可能な精密検査機関名の一覧を提示しましたか			○	
問3-2-1 精検機関一覧に記載した精検機関への精検結果報告依頼			○	
問4-1 精検方法・結果の把握			○	
問4-2 精密検査方法及び、精密検査（治療）結果が不明の者については、本人もしくは精密検査機関への照会等により、結果を確認しましたか			○	
問4-3 精検方法・結果の区市町村・検診機関・精検機関との共有			○	○
問4-4 過去5年間の精密検査方法及び、精密検査（治療）結果を記録していますか			○	
問4-6 精検未受診者への受診勧奨	○		○	
問5-4 精検結果を健増報告に計上するための委託先への報告要求			○	
問5-5 精検結果の委託先からの報告が健増報告の全項目を網羅していない場合の改善要求			○	
問6-1-1 仕様書の内容は、「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」を満たしていますか			○	
問6-1-2 検診終了後に、委託先検診機関（医療機関）で仕様書（もしくは実施要綱）の内容が遵守されたことを確認しましたか			○	
問6-2 検診機関への精度管理評価のフィードバック			○	
問6-2-1 検診機関用チェックリストの遵守状況のフィードバック			○	
問6-2-2 検診機関（医療機関）毎のプロセス指標値を集計してフィードバックしましたか			○	
問6-2-3 課題のある検診機関への改善策のフィードバック			○	

該当項目なし

3 チェックリストのうち「調査2 平成30年度の精度管理指標把握について」の実施率

○令和2年度は令和元年度と比較して、胃内視鏡〔集団〕と大腸〔集団〕を除き、実施率が上昇している。

○各項目の実施率を令和元年度と比較し、2種類以上のがん検診において10ポイント以上上回ったがん検診の種類は下表のとおり。なお、令和元年度と比較して2種以上のがん検診において実施率が下回った項目はなかった。

＜調査2における令和元年度～令和2年度の都のチェックリスト実施率＞

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃部エックス線		胃内視鏡		集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診
	集団検診	個別検診	集団検診	個別検診								
令和2年度	94.3%	86.8%	84.1%	89.5%	90.7%	87.5%	89.9%	88.7%	88.0%	88.8%	89.8%	91.2%
令和元年度	89.8%	83.5%	89.7%	77.3%	90.8%	85.4%	87.8%	82.5%	86.0%	86.9%	82.8%	89.6%
[参考]令和元年度 全国平均	86.2%	73.7%	79.4%	74.8%	85.6%	75.4%	86.1%	73.2%	85.5%	76.4%	85.0%	76.7%

項目		集団検診 [検診の種類]	個別検診 [検診の種類]
問9-1-3	要精検率を検診受診歴別に集計しましたか		胃内視鏡、肺
問10-1-3	精検受診率を検診受診歴別に集計しましたか	該	胃内視鏡、肺
問11-1-3	がん発見率を検診受診歴別に集計しましたか	当	胃内視鏡、肺
問12-1-3	陽性反応適中度を検診受診歴別に集計しましたか	がん	胃内視鏡、肺
問13-1	早期がん割合の集計	検	胃部エックス線、胃内視鏡
問13-1-1	早期がん割合の性別・年齢5歳階級別集計	診	胃部エックス線、胃内視鏡
問13-1-2	早期がん割合の検診機関別集計	なし	胃部エックス線、胃内視鏡
問13-1-3	早期がん割合を検診受診歴別に集計しましたか		胃部エックス線、胃内視鏡

4 都内地域別の実施率〔集団検診〕

○23区・多摩地域・島しょ地域別の実施率を比較すると、大腸〔調査2〕及び乳〔調査1・2〕においては多摩地域が最も高く、他のがん検診では23区が最も高くなっている。

○23区と多摩地域を比較すると、肺〔調査1〕、子宮頸〔調査1〕において、多摩地域が10ポイント以上下回っている。

○23区と島しょ地域を比較すると、胃部エックス線〔調査2〕を除き10ポイント以上の乖離があり、特に肺〔調査1〕、子宮頸〔調査1〕においては30ポイント以上の差となっている。

＜23区・多摩地域・島しょ地域の令和2年度実施率（調査1・調査2別）＞

	胃がん検診				大腸がん検診		肺がん検診		乳がん検診		子宮頸がん検診	
	胃部エックス線		胃内視鏡		調査1	調査2	調査1	調査2	調査1	調査2	調査1	調査2
	調査1	調査2	調査1	調査2								
23区	73.8%	93.6%	70.8%	100.0%	71.6%	91.2%	82.7%	99.2%	65.4%	85.2%	79.8%	95.7%
多摩地域	69.0%	93.9%	-	-	66.2%	96.6%	66.6%	92.3%	66.5%	93.1%	63.7%	93.6%
島しょ地域	47.1%	99.0%	44.4%	78.8%	43.2%	77.8%	43.2%	78.2%	54.6%	74.5%	43.8%	83.6%

※個別検診については、多摩地域や島しょ地域で未実施の自治体が多いがん検診もあるため、集団のみ比較

チェックリスト実施状況向上のための今後の課題

- 昨年度同様、調査2の精度管理指標については、全国と比較して把握が進んでいる状況である。
- 調査1の検診実施体制のうち、問1-2「対象者全員への個別の受診勧奨」問4-3「精検結果共有」問4-6「精検未受診者への受診勧奨」問5-4「精検機関への報告要求」問5-5「精検機関への改善要求」問6-2「検診機関への精度管理評価フィードバック」問6-2-1「検診機関への検診機関用チェックリスト遵守状況のフィードバック」問6-2-3「検診機関への改善策のフィードバック」の実施率は全国平均と比較して、特に集団検診において20ポイント以上下回るがん検診が複数あった。医療機関や医師会等との連携が必要な項目が多く、該当項目の実施状況改善のための取組の拡充が必要である。
- また、地域別では、23区、多摩地域、島しょ地域の順に低くなっており、島しょ地域では全てのがん検診において大きな差が生じている。可能な限り地域格差が改善されるよう、都として引き続き、助言・指導を行っていく必要がある。